

まちづくり会議

加治木高校生徒会新聞
軌跡



第2号
2022.09.02.(金)

制作
下村将太郎

発行
第75代生徒会

一、まちづくり会議
二、連載企画紹介
三、言の葉

四、R4 龍門祭
五、編集後記



八月十八日、始良市公民館で、五つの高校・高専の代表者が参加して、「あいら若者まちづくり会議」が開かれました。本校からは生徒会の下村将太郎さん、鰐坂つばささん、小牧来竜さんが参加し、「始良市に足りないもの」をテーマに湯元敏浩始良市長と意見を交わしました。

第七十五代生徒会では、地域交流を積極的に進めていきます。今回参加して得た新たな発想を、今後の活動に活かしていきたいと思っています。

※会議に参加した鰐坂つばささんのコメント※

私は、あいら若者まちづくり会議に参加して学んだことがたくさんありました。私の知らない地域の行事やボランティアなどがあり、自分が始良市に関心を持てていなかったことを実感しました。公共交通機関の積極的な利用や公園・海岸の清掃ボランティア、地域イベントへの参加など今後活動していきたいことはたくさんあります。ただ要望を出すだけでなく、要望の実現につながる行動をしていくことが大切だとわかったので、これから周りの人へ呼びかけをし、皆で協力しながら、若い世代が始良市の活性化の中心となれるよう頑張っていこうと思います。

連載企画紹介

第七十五代生徒会新聞『軌跡』いよいよ本格始動です。今号から一年間連載する企画を紹介します。

『言の葉』

毎号一つ、生徒会役員が選んだ偉人や小説などのことばを掲載します。皆さんにとって素敵なことばとの出会いがありますように。

コラム『編集後記』

毎号掲載するコラムです。タイトルは読売新聞のコラム『編集手帳』から発想しました。

今回は二面に龍門祭特集を組んだため、連載開始は『言の葉』『編集後記』のふたつとなりました。このほかの連載企画は、生徒会新聞第三号からの開始となります。お楽しみに！



人生は一冊の書物によく似ている。愚かな者はそれをパラパラとめくっていくが、賢い者は丹念にそれを読む。何故なら彼は、たった一度しかそれを読めないことを知っているからだ——ジャン・パウル

龍門祭 R4

九月三日・九月十日の三日間、加治木高校第七十五回龍門祭が行われました。

第一部・体育祭の開催が迫る中、今年度の龍門祭で生徒の中心となって学校を盛り上げる、応援団長三名と文化祭実行委員長にインタビューしました。



応援団長インタビュー

Q1. 応援団の印象

Q2. 練習での課題

Q3. 目標

Q4. 団メンバーへ

Q5. 全校生徒へ

黄 小水流颯太さん

A1. 強個性。すごく仲がいい。

A2. 団長の蹴りの動きが心配…。

A3. 当日観てくれる観客全員に韻波句徒を残す！

A4. ケガだけはしないようにしてください。絶対。

A5. 一・二年生の皆さん、お手柔らかに。受験前の三年生がケガしないようにお願いします。

紫 堂前優太朗さん

A1. 一人一人が応援団を楽しみにしている。

A2. コロナ対策のために練習ができない期間があり、個人で練習してもらっていたが全体で息が合わないことも。

A3. 完全燃焼。今回はこれまでにない取り組みをしている。お楽しみに！

A4. 去年に比べて制限も緩和されてきているので、これまでとは違う楽しみを！

A5. 龍門魂を見せつけましょう！

赤 久木山さりいさん

A1. 女子の方が人数が多く、また女子がとても元気。

A2. 演舞の難易度が高いので、全員の動きを合わせるのが難しい。

A3. 演舞を参考にしている動画よりもしっかりと仕上げる。決めるところで決める。

A4. 一番下の学年だからと言って遠慮せず、競技でも応援でも優勝しましょう！

A5. 学年対抗の体育祭ですが、学校全体で一つにまとまって楽しめましょう！

文化祭実行委員長

迫田健吾さん

Q. なぜ実行委員長に。

A. 昨年実行委員を務めたが何もできなかったもので、再挑戦したい。

Q. 文化祭をつくる上で大切にしたいこと。

A. 準備段階ではクラス単位で、鑑賞では学校単位での思い出を作ってほしい。

Q. どんな文化祭にしたいか。

A. 「青春っぽさ」を大事にしたい。勉強や部活などそれぞれにとつての青春の形があると思うが、文化祭の短い開催期間の中でも、過ごせるだけの青春を過ごしてほしい。

Q. 全校生徒に一言。

A. 龍門祭は青春の塊であり、三年生にとつては受験への節目でもあります。楽しみなきや損しますよ！

編集後記

岩にしみ入ることもなく学校中に響き渡っていた蝉の声も、少し落ち着いてきたように思います。八月末の実力考査と、そして二・三年生の皆さんは全統模試を終えて一週間。二期が始まりました。

四十日もあるようで実は二週間ほどしかなかったような夏休みが終わりを、明日には早くも体育祭が、そして一週間後には文化祭が開催されます。今年度は昨年度よりも制限を緩和し、少しずつ本来の龍門祭に戻すための試みが随所でなされています。三日間の龍門祭、かけがえのない「青春」を楽しみましょう。

ところで、今回から、生徒会新聞『軌跡』の新連載企画『言の葉』が始まりました。たとえば高校生活のわずか三年間でも、印象的な経験をしたり、離れたくないと思える大切な人と出会ったり、あるいは夢を見つけたたり。かけがえのない経験が、その価値をはかれないほどの時間が、誰にでもあると思います。どうせ過去になってしまいうなら、後で読み返したいと思えるような、素敵な世界を描く工夫もしてみませんか。過去は、繰り返せません。

さて、第七十五代生徒会新聞『軌跡』第二号でした。最後まで読んで下さり、ありがとうございます。今年も、皆さんに楽しく読んでもらえるよう工夫を凝らして制作していきます。第三号からお楽しみに。

(下村 将太郎)